

更新

事業者名	株式会社再春館製薬所
------	------------

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

私達に関わる「お客様」「社員・社員の家族」「協力会社」「地域」「自然」「地球上の人々」全ての幸福を追求し、その幸福を永続的に循環させる経営を推進することで、世の中に貢献し続ける、なくてはならない会社を目指す

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input checked="" type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	<p>県農産物の有効活用による持続的な産出と雇用創出による地域創生(自治体・農家とのパートナーシップによる不知火菊の商品原料化と応用展開)</p>	<p>【2026年までの目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不知火菊配合新規製品のリリース ・製品配合を見据えた安定的な計画栽培(年間5,000株程度維持) ・地域雇用の継続創出(2023年:19名→2026年:19名 ※現状の雇用維持に努める) ・サワヒヨドリ配合新規製品のリリース
<input type="checkbox"/> 環境 <input checked="" type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	<p>年齢を重ねることによるお悩みを解決していくことにより、イキイキと自分らしい人生を応援(社内:健康経営の推進)(社外:イキイキ人生に寄与する商品の開発、リニューアル)</p>	<p><社内></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康経営優良法人認定の継続認定(2024年~2026年) <p><社外></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イキイキに寄与する商品の開発・発売(2026年までに開発、リニューアル等)
<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input checked="" type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	<p>「自然とのつながり」をキーワードに、再春館製薬所の環境への取り組みを世の中に分かりやすく伝えていく。</p>	<p>2024年までに、ホームページの改訂、環境活動についての情報(数値関連も)の見える化を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年にコーポレートサイトのリニューアル、環境に関するページにおいても、各取り組みにおける見える化を推進、情報のアップデートも都度実施する(https://www.saishunkan.co.jp/nature/) <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの企業活動が認知されたことにより、環境活動を目的とした会社見学の依頼も多いため、会社見学を継続的に行い、個人、団体で1,000名の来社を目標とする(2023年度718人⇒2026年度1,500人) ・熊本市の教育委員会や教諭を通じて、環境の取り組みについてのプレゼンテーションを行いながら、学校に直接出向いての、出前授業の実施も継続的に行う(2023年3回⇒2026年3回)

<パートナーシップ>

環境・経済・社会のゴール達成に向け、全てのステークホルダーと協業しながら取り組みを推進

(例)

- ・県農産物の有効活用による持続的な産出と雇用創出による地域創生における自治体(宇城市)、宇城市農家の方々と連携
- ・子ども食堂支援における熊本県や熊本市・フードバンク熊本との連携
- ・地域活性化における熊本ヴォルターズ・ロアッソ熊本・火の国サラマンダーズとの連携
- ・国民の健康と安全に向けた、科学的根拠に基づく漢方構成生薬の基原植物及び有用植物等における化粧品や自然食品素材としての機能性解明等に係る研究などにおける熊本大学との連携
- ・熊本日日新聞が推進する「くまにちSDGsアクションプロジェクト」へ2022年度より参画連携し、他参画企業とともに、取り組みを新聞紙面、WEBサイトを使って広く公開
- ・顧客の商品購入金額の一部を熊本の水を未来へ繋いでいく活動資金として「公益財団法人くまもと地下水財団」へ100万円を5年間寄付
- ・公益財団法人 再春館「一本の木」財団と連携して、万日山、阿蘇くまもと空港へ向かう幹線道路の植栽整備活動など

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。

・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。

・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関するこれまでの重点的な取組み及び指標に係る進捗状況>

三側面 (分野に☑)	取組みの状況	前期の指標	実績
<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input checked="" type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	<p>【県農産物の有効活用による持続的な産出と雇用創出による地域創生(自治体・農家とのパートナーシップによる不知火菊の商品原料化と応用展開)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能性表示食品「歩みのゼリー」へ不知火菊原料を配合(2024年) ・宇城市との連携を行い、市の広報誌での情報発信も実施。地域おこし協力隊の協力も得て、植え付けや収穫を実施。2020年からのパートナー農家とは2023年に目標の増産を達成、新たな協力農家をご紹介いただき、2024年は5,000株の栽培実施。 ・不知火菊増株計画も実施。2023年には8,000株の植え付けを実現。食品など新たな製品への応用も見据え、十分な在庫を確保できた。 ・上記に加え、熊本県の南小国町、山都町の農家と協力し、2021年より耕作放棄地でサワヒヨドリ栽培開始。市場に流通している本生薬はほぼ中国産であり、国産化による安定供給実現に成功した。2023年は収穫量約2.8トンまで規模を拡大した。就労支援を行う団体とも協力し、新規雇用を創出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不知火菊の商品原料化(2015年) ・自治体との連携、農家とのパートナーシップ協定(2015年) ・農家との不知火菊増株契約(2021年) ・不知火菊株数を増株(2020年300株→2021年3,000株→2023年8,000株) ・その他農産物でも同様の動き有 	<ul style="list-style-type: none"> ・機能性表示食品への新規配合(2024年) ・宇城市、新規農家との連携継続(2024年) ・製品配合に向けて安定栽培継続。 ・不知火菊株数を増株(2020年300株→2023年8,000株) ・サワヒヨドリ国産栽培実現および栽培規模拡大。(2023年は収穫量約2.8トン)
<input type="checkbox"/> 環境 <input checked="" type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	<p>【年齢を重ねることによるお悩みを解決していくことにより、イキイキと自分らしい人生を応援(社内:健康経営の推進)(社外:イキイキ人生に寄与する商品)】</p> <p><社内> ・初任500認定はならず、申請企業数の急増もあり、認定の為の施策とならない活動とするため、取得目標の年度設定は行わない事とする。</p> <p><社外> ・2024年5月31日(金)～6月2日(日)に熊本城ホール、くまもと街なか広場で開催されたウェルエイジングウフェアに協賛3日間で計50,000人の来場。自社ブース出店も行いイキイキ人生に対しての生活者へのPRを行った。</p>	<p><社内> ・健康経営優良法人認定(2021年)</p> <p><社外> ・イキイキに寄与する商品の開発・発売(2023年までに3商品)</p>	<p><社内> ・健康経営優良法人認定(2022年・2023年)</p> <p><社外> ・2024年3月27日「増加する筋力」と「歩く力の向上」の連鎖の手応えに、「脂肪消費・減少」へのアプローチも。機能性表示食品「歩みのゼリー」新発売</p> <p>・2024年6月1日、現代人のライフスタイルに即した漢方発想インナーケアなどの商材を提案するブランド「Lashiku(ラシク)」発の「体においしい 薬膳スープ粥 4種アソート」は、マタニティフード認定を取得</p>
<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 経済	<p>【企業活動に係るCO2実質排出量の削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー、冷凍機、空調機等の運転スケジュール管理及び事務所や工場の状況による設定変更、間欠運転を実施し省エネの実行 ・エネルギーを消費機器の更新、新設時は省エネ効率の高い機器を検討導入 	<p>2023年までに、「執務空間」「商品の製造」「商品の配送」など企業活動に係る全ての過程での目標設定および具体策を立案・実行する予定</p>	<p>企業活動の過程における目標設定は行わず、全体としてのCO2排出量の削減に向けた取り組みを積み重ねる形で実行</p> <p>CO2排出量 2021年度 2,646t-CO2 2022年度 2,125t-CO2 2023年度 2,438t-CO2 ※基準年度2018の3,718t-CO2から、34.6%減</p> <p>※太陽光発電設備の設置による、CO2排出削減は、売電を行っての含まず。</p>

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。